土砂災害の恐ろしさ

足羽第一中学校（あすわだいいちちゅうがっこう）　一年　清水（しみず）　みそら（みそら）

土砂災害の本当の恐ろしさを、私はまだ知らなかった。それは、実際に大きな土砂災害を経験したことがないからだろう。しかし、最近新聞で十二面分の土砂災害の記事を目にした。そこには、「千年に一度の土砂災害」と、記されていた。それは、二十年前に起きた福井豪雨の恐ろしさを訴える記事だった。私はその記事を読んで、土砂災害というものは、自分の身近なものだと感じた。

私は、福井豪雨の被害にあった祖父と祖母に話を聞いた。祖父母が住んでいるところは、「美山地区」という、山に囲まれた自然豊かな地域だ。その自然で美しい地域が、福井豪雨のときは、とても恐ろしいところになったと言う。

福井豪雨が起こったその日、祖父は福井の街中へ出かけていた。しかし、大雨の影響により、山が崩れて橋が崩壊し、家に帰れなか

コクヨ　ケ-10　23×20

ったそうだ。そして、美山で避難していた祖母と連絡が取れず、不安な日々を過ごしたそうだ。福井豪雨では、たくさんの人が大きな被害に遭い、大変な思いをした。しかし、勇気をくれたのは、復興を手伝ってくれたボランティアだったと祖父母は言う。夏休みだったこともあり、学生を中心に県内外から二万二千人を超えるボランティアが駆けつけてくれたそうだ。この話を聞いて、ボランティアという活動は、被災者を元気づけ、助ける素晴らしい活動だと思った。土砂災害が起こったときに、自分の存在が被災者の役に立つのなら、参加して困っている人を助けたいと強く興味を持った。

私は小学生の頃、土砂災害の避難訓練に参加したことがある。その避難訓練では、消防署の方に、避難するときに大切なことを教えていただいた。その中で私の心に残ったのは、「自助」という言葉だ。「自助」とは、自分の命は自分で守るという意味の言葉だ。私は、

コクヨ ケ-10 20×20

自分の命は自分で守れるように、普段から備えておくことの大切さを学んだ。避難しても、家族と離れ離れになってしまったら、しばらくは自分一人で生活していかなければならない。そのために、日頃から必要なものを準備したり、親に頼らなくてもできることを増やしたりしていきたい。

土砂災害というものは、必ず起きてしまうものだ。だから、土砂災害をなくすことはできない。しかし、土砂災害の被害を減らし、困っている人を助けることはできる。私は、そのために「情報」と「地域」が大切だと考えた。

一つ目の「情報」は、誰もが簡単に情報を受け取れる社会になることだ。最近は、スマートフォンなどが普及し、多くの人に情報が届くようになった。しかし、まだ全ての人に情報が早く届くようには、なっていない。全ての人に素早く情報が届けば、すぐに対策をとり、避難することができる。そして、被害

コクヨ ケ-10 20×20

を減らすことにつながると思う。地震などの災害は、予測することができないため、いつ起きるか分からない。しかし、土砂災害は予測することができる。そのため、ニュースや天気予報などを見ることで、被害を減らすためにできることがあると思う。

二つ目の「地域」は、深い地域のつながりをつくることだ。多くの人の命を守るためには、地域のつながりが欠かせないと思う。地域の高齢者の方などとのつながりがあれば、緊急時一緒に避難することができる。しかし、避難が大変な方が、地域の人とつながりがなかったら、おいていかれてしまって避難できなくなってしまうかもしれない。このように、どの家にどのような方が住んでいるか知っているだけで、救える命が増えると思う。

土砂災害について聞いたことや調べたことをもとに、これから取り組もうと思ったことが三つある。

一つ目は、多くの情報に触れるということ

コクヨ ケ-10 20×20

だ。ニュースや天気予報、新聞などをみることで、どこでどのようなことが起きているのかを知ることができる。その中には、自分の命を守ることにつながる内容もあると思う。また、被災想定区域や避難経路などを記したハザードマップを確認して、自分の安全につなげたい。

二つ目は、地域のつながりをさらに深めるということだ。毎日元気なあいさつをしたり、地域の行事に積極的に参加したりして、地域の方とたくさん関わり、つながっていきたい。

三つ目は、土砂災害のことについて発信していくということだ。土砂災害の被害などを発信して、多くの人に土砂災害の恐ろしさを知ってもらいたい。

これからの私たちに必要なことは、必ず起きてしまう、恐ろしい土砂災害と向き合っていくことだ。そして、土砂災害から自分やたくさんの人の命を守っていくことが、これからを生きていく私たちの使命だと思う。

コクヨ ケ-10 20×20